

海洋スポーツによる「地域発イノベーションの創出」および地域連携の充実3

中村夏実、榮樂洋光、坂口陽平（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター）、高橋莉央（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター特任専門員）

現在、大隅地域の各事業所で展開されているウォーターフロント事業への協力に加え、「地域発イノベーションの創出」を目指した取り組みを継続的に実施した。主な事業概要は、以下の3点であった。

1. 連携体制の構築（社会貢献）：

近隣の海洋スポーツ事業者等との連携体制をより明確にし、ウォーターフロント開発事業のコンソーシアムの機能を持つ任意組織の原型を模索する

外部協力者会議（2020/12/6）に、近隣の海洋スポーツ事業者を招き、今後連携体制を密にしていくための情報交換会の場を設けることの同意を得た。12月、翌年3月に開催を検討したが、いずれもコロナ禍にあって各事業所の諸事情により延期され、2021/6/18に「マリンスポーツ協議会（仮名）」として第1回目の情報交換会が行われた。参加者は、大隅青少年自然の家、OCEAN'S CLUB合同会社（マリnpark垂水）、パドラーズ（ユクサおおすみ海の学校マリnアクティビティ担当部門）、未来観光株式会社であった（会場：ユクサおおすみ海の学校）。各事業所の事業概要と課題が共有され、双方の連絡手段を確認した。

【今後の展開】各事業所の性質が異なるため、手始めとして、それぞれの広報活動が相互にリンクして展開できる方策を協議しながら連携体制を構築していく。

2. マリンスポーツ事業の展開（社会貢献）：

海洋スポーツイベントやプログラムの運営への協力等を展開する

令和2年度に開催された協力事業は、国立大隅青少年自然の家企画の海洋スポーツ体験「海からのメッセージ」だけであった。カヌーによる錦江湾沿岸ツーリングの安全管理と、カヌー以外の海洋スポーツアクティビティの体験プログラムを実施した。

他、運営協力として参加予定だった、マリnフェスタinかのや（鹿屋市）、鹿屋カップオープンヨットレース（鹿屋海洋スポーツクラブ）、また受け入れ指導予定であった鹿児島南高等学校体育科野外活動（海洋スポーツ）は、コロナ禍のため中止となった。

【今後の展開】各種プログラムは、社会情勢を見ながら継続実施する。なお、「海からのメッセージ」プログラムについては、令和3年度以降、その実施効果を検証する共同研究計画を立案する。

3. 情報発信：

マリンスポーツの心身への健康増進効果に関するエビデンスの蓄積し公表する
日常的なプログラムやイベントプログラムの、指導・運営等に係る情報を発信する

①テキスト（ローイング編）の作成（教育）

海洋スポーツ活動における安全知識と安全対策について、現状を見直すとともに、課外活動および授業等のヒヤリハット調査事例を加えて「安全の心得」改訂版を作成した。平成30年度「SUP実技指導マニュアル」令和元年度「カヌー実技指導マニュアル」に、令和二年度「安全の心得」を加え、基礎から学ぶ海洋スポーツ～ローイング編～を作成し、近隣の海洋スポーツ事業者に配布した。

【今後の展開】関係者の閲覧・実践利用を経て、必要に応じて改変し、広く活用できる手段を検討する（オンライン掲載を検討する）。

②SUP運動の効果（研究・社会貢献）

令和元年度までに継続実施した「公開講座SUP健康教室」を対象とし、SUP運動の中高齢者に及ぼす効果について、論文発表した。過去にSUPを行ったことのない男女中高年齢者9名（60.3±10.6歳）が、週1回、約2時間、全9回実施したところ、静的バランス能力は17～20%、動的バランス能力は、4～6%改善したことを示し、SUP運動が中高年齢者のバランス能力への効果を及ぼすことを報告した。

<http://sports-performance.jp/paper/2003/2003.pdf>

【今後の展開】SUP運動のバランス能力に対する効果について多角的な検討を継続する一方で、体力維持・亢進のための効果具体的なプログラム提案を目指し、SUP運動中のエネルギー消費量データを蓄積する。



海洋スポーツテキスト
～ローイング編～

③海洋スポーツ関連情報データベース化

（教育・研究・社会貢献）

海洋スポーツに関連する和文論文および記事について、DBの構築に取り組んだ。令和2年度現在で、AccessDBを利用し、登録数1750件となった。現時点では非公開である。

【今後の展開】令和4年度以降、海洋スポーツセンターHPの構築を検討しDB公開を目指す。



プールでのSUP練習（1～2回）



海でのSUPツーリング（7～8回）